



1月29日
みよし市民病院
(11:00~11:50)

病院側参加者（ 3 ）名

-溝口事務局長、久野事務局次長、管理課杉山

共同行動参加者（ 6 ）名

— 小松（社保協）、林（自治労連）、市川（愛労連）、牧田（みよし市議）、浜島・矢野（医労連）

1) 今回の「名指しリスト」に指名されたことについての貴職の意見等について

9/26 突然市長から、「報道機関が来るから対応してくれ」と言われ、何のことかわからなかった。報道機関から聞いた。事前の連絡もなく、公表され、対応に苦慮した。院長は「多くの中小病院は今回の評価基準では実績が低いのは当然。インパクトのみを重視したやり方。現場の混乱から体力のない病院は消えていっても仕方がないとでも言うような作為的な方法。」とコメントしている。

昨日（地域医療構想推進委員会）説明があったが、「車で20分以内」は、深夜に信号も全て青で救急車で行くような想定で計算。

2) 患者・地域住民、職員の反応や寄せられた声など

住民や患者から病院なくなるのではないかと多くの問い合わせあり、窓口で説明する等した。

3) 貴職から、患者、地域住民、職員への対応や説明について

職員から不安の声多くあり、研修の際など院長が何回も説明を行った。事業管理者から議会でも説明。11/10 病院祭で市長からも病院の今後の方針について説明。ホームページにも掲載予定。12月の仕事おさめ式でも市長から職員に対し、今後も市としては継続して支援していくと説明した。

風評被害、採用への影響は耳には届かないが、応募をやめた方もいるかもと懸念。医局派遣の医師撤退の危惧あると院長は心配しているが、今のところはない。

4) 当院の現状と、「再検証」対応に向けた方針・計画など

（病院側から資料提示・説明あり）

名指し前に元々、市の有識者の意見をまとめ、地域包括ケア病床へ20床転換予定。たまたま発表の前から検討していた。急性期54床→34床、回復期14→34床に機能転換。リハビリ機能の充実に時間はかかるが2025年までに何とかしたい。

1/28 西三河北部の調整会議：この病床計画に満場一致で賛同。おそらく3月開催の県の調整会議で承認頂ければ、この方向で行く事になる。

医師や看護師確保の面では急性期もないと魅力がない。車を持たない高齢者も通えるよう、急性期もある程度残しておかないと。高度急性期の重篤な方はトヨタ記念、豊田厚生にお願いし、その後の回復期の方を当院で受け入れる形の連携ができています。病床稼働は全体85%、地域包括は95%

5) その他 ・厚労省や国への「要望」等

10%病床削減時の補助金について→今は支援金があるが、実際当院が転換する時にまだあるかはわからない。

議会で意見書の予定なし→みよし市議会は当院について好意的に受け止め、今後の計画についてもほとんど賛同頂いている。



1月29日 木曾川市民病院(15:00~15:40)

*一宮市立木曾川市民病院（旧木曾川町立病院で、自治体合併により一宮市となり、一宮市立病院が3病院となった。市役所に、病院事業部が設置され、3病院の運営統括を行っている）

病院側参加者（ 2 ）名

－ 伊藤事務局長、平松事務局次長

共同行動参加者（ 4 ）名

－西尾（医労連）、柳（自治労連）、宇野（国公）、中村（一宮社協）

*懇談内容

※「私どもからの「資料」等の説明」に対する質問や意見など

特になし。

1) 今回の「名指しリスト」に指名されたことについての貴職の意見等について

名指しは「遺憾」、もともと2025年にむけて（一宮市民病院の）後方病院になることをめざしてきた。

急性期 90→0、回復期 48→138

データだけで言われればそうかもしれないが、他の病院とは事情が違う。

2) 患者・地域住民、職員の反応や寄せられた声など

患者・住民からの声は、一宮市民病院を含めて特になく、拍子抜けしている。

3) 貴職から、患者、地域住民、職員への対応や説明について

職員には口頭で説明した。

公表後の採用に影響はない（採用していない）。もともと人手不足（看護助手など）。

4) 当院の現状と、「再検証」対応に向けた方針・計画など

年度	計	高度急性期	急性期	回復期	慢性期
2017年	138	0	90	48	0
2018年	138	0	90	48	0
2025年計画	138	0	0	138	0
差引	0	0	▲90	90	0

一宮市民病院の後方病院（リハビリ充実）として、市長も存続させると言っている。

地域包括ケア病床 33→増やしていく

5) その他

- ・私どもへの意見や
- ・厚労省や国への「要望」等

一病院ができることではないので、病院の団体？を通じて物申していきたい。